別紙

＜本校エリアにおける地域支援モデルの提案＞

＜実態の把握＞

・観察
・実際のやりとり
・*指標の活用（知的程度の把握）
・場合によっては発達検査等

※知的障害のある児童生徒のケースをイメージしたモデルを示す。
１ケース２回（見立て＆提案と、提案の見直し）の訪問を基本としたい。

*指標＝「知的障害の程度に関する統一的な指標（平成 29 年度版）」滋賀県

＜学習環境の把握＞

・支援学級等の在籍人数の把握
・対象児の障害の程度と現在行われている学習の把握
・対象児だけでなく、周囲の児童生徒の実態や学習状況の把握
・交流学級の頻度、交流学級での様子等の把握

これらを踏まえて、
校内委員会等で論議

どちらの提案もできるように本校は準備する。
※“友人関係・集団行動・社会のルール”に課題がある場合は、“手ごたえの持てる集団”での学習（支援学級・支援学校等との交流及び共同学習）の検討を行う。

＜“合わせた指導”のアレンジ＞

・本校で実践している、日常生活の指導、遊びの指導、作業学習等を各地域校園の実態に合わせてアレンジして提案
→実態に応じた具体的で体験的な学習を通した、手ごたえを持った学習・学校生活
→集団で取り組む醍醐味
→教師を介して友だちともつながる経験

＜各教科別指導へのアレンジ＞

・本校の実践を教科別に分解、具体的・体験的机上学習にアレンジして提案
→ひらがなの読み書き、たし算・ひき算といった学習が難しい場合の工夫（下学年対応が実態に合わない場合の工夫）
→プリント学習の工夫だけでなく実際に手を動かし、考え、達成感が味わえる教材・教具の具体的提案

“手ごたえの持てる集団”での学習検討

＜実践と日々の振り返り＞

・取り組みの様子を記録し、振り返る
→ねらいにそった取り組みになっているか。
→子ども自身が主体的に取り組んでいるか。手ごたえを持って取り組んでいるか。
→実態にあった集団での学習は保障されているか。または、集団の中でその子に寄り添った支援が実施されているか。

定期的に見直し・修正